

地域のグリーンインフラを 協働により保全する

キーワード グリーンインフラ, 環境修復・再生技術, 協働



■ 研究概要

夏山シーズンともなると日本各地の山々は登山客であふれます。美しい景観を楽しむ人びとは皆、とても良い顔をしています。コロナ禍では余計に輝いて見えます。ただ、その足下に目を移すと、雨の度に水が流れ地表侵食が著しく進んだ、荒れた登山道に気がつきます。まるで山が泣いているかのようです。私たちはこのまま山登りを続けていけるのでしょうか。

人里に近い里山はどうでしょうか。60~70年ほど前までの里山は薪・炭といった燃料や山菜・きのこ等の食材を得る密接なつながりを持った自然資源でしたが、その関係が薄れるにつれ手入れはおろそかとなり荒れてしまっています。庄内砂丘を覆う広大なクロマツ海岸林も代表的な里山であり、地域の生活・生産活動を支える重要なグリーンインフラです。造成から維持管理段階へ進んだ庄内海岸林はより多くの人の関わり、手入れを必要としています。

これら奥山・里山を対象に、荒廃環境の現況把握から環境保全対策技術を検討しています。また環境の保全・再生を実際に進めるために、地域住民や利用者、関係機関の協働による環境保全管理システム・組織づくりに取り組んでいます。企業の皆さん、地域の生活・生産活動を支えるグリーンインフラの整備・保全をCSRとして地域住民や利用者とともに進めていきませんか。



↑ヤシ殻繊維製土嚢に生じたハイマツ実生



↑手入れを待つ庄内クロマツ海岸林

■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・地域の自然素材（例えばササ、竹）を使った環境に配慮した緑化資材・技術の開発
- ・地域住民や利用者、関係機関の協働による環境保全管理システム・組織づくり
- ・環境保全活動をCSRとして行っ際の学術的指導・コーディネート

菊池 俊一 准教授 KIKUCHI, Shun-ichi

専門分野：森林科学、攪乱生態学、治山・砂防・緑化
E-mail：kikku@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

